

<目的>本研究は住宅の台所計画において未だに着手されていない厨芥の問題を解決するために台所内のゴミ容器について検討する。即ちその種類と所有数、平均容量、ゴミ処理行為とその回数などゴミ容器の使用状況から厨芥の搬出経路のタイプ分けを行なう。

<調査の概要>アンケートの調査項目は①親と子への環境問題意識②ゴミ容器の使用実態③調理行為と台所平面図の記載の各部分から成る。対象は小学生の子供をもつ主婦196人で、子供への質問とゴミ容器の計測を含む。実施時期は1990年の7～9月である。

<結果と考察>①ゴミ容器の平均数はシンク内1.51個、台所1.60個、屋外1.56個であった。②シンク内は三角コーナー約60%、スレナー約80%の所有率で両者の併用がみられた。③台所内のゴミ容器の所有率は生ゴミ用60%、紙用82%、瓶・缶用19%であった。④屋外のゴミ容器の所有率は生ゴミ用74%、紙用5%、瓶・缶用78%と特徴的な傾向を示していた。⑤各ゴミ容器の平均容量はシンク内の生ゴミ用3ℓ。台所の生ゴミ用23ℓ、紙用20ℓ、瓶・缶用18ℓ。屋外の生ゴミ用93ℓ、紙用12ℓ、瓶・缶用7ℓであった。⑥シンクの生ゴミは80%以上が<a. 1日1回以上調理後や夜に処理>されていた。台所の生ゴミ、紙ゴミは共に<a>と<b. 2～3日に1回のゴミ収集日に処理する>グループに分かれた。瓶・缶については大半が<収集日に処理>していた。⑦以上から、ゴミの搬出経路の主なタイプとその頻度を求め以下に示す。生ゴミⅠ(流→台→外→集)34%、Ⅱ(流→台→集)23%、Ⅲ(流→外→集)35%。紙ゴミⅤ(台→外→集)56%、Ⅵ(台→集)40%。瓶・缶Ⅴ(台→外→集)17%、Ⅵ(台→集)19%、Ⅶ(外→集)58%。